

学校の再開にあたって

伊勢高等学校長

昨日、国が三重県を含む39県の緊急事態宣言を解除したことを受け、三重県の県立学校では、5月18日（月）から学校を再開し、段階的に分散登校から始めて6月1日（月）からの本格的な学校再開に向けて準備を進めていきます。具体的なスケジュールは別途連絡しますが、学校の再開にあたって皆さんに次のことをお願いします。

（１）「終息」と「収束」

新型コロナウイルス感染症は、現在「収束」に向かっている状態にあります。「終息」とは、やむこと、終わることですが、「収束」とは、完全な終息に至る前の、一定収まっている状態です。いまだに新型コロナウイルスの有効な治療方法やワクチンは開発途上であり、医療体制も万全とは言えません。これまでの他種のウイルスと同様、新型コロナウイルスも「終息」することなく、「収束」状態のまま、医療体制を整えながら共生していかなければならない可能性もWHOから示唆されています。いったん収束していても、再流行があることを想定して、少しでも長く、学校での教育活動が続けられる努力と工夫をしていきましょう。

また、不幸にも再び休校となった場合に備えて、引き続きオンライン教育の体制を整えていきたいと考えています。これまでの試行でさまざまな課題も浮かび上がってきていますが、困ったことがあれば聞かせていただき、課題を克服して推進していけるよう協力してください。

（２）「コロナ以前」と「コロナ以後」

緊急事態宣言下の生活は、「コロナ以前」から一変しました。緊急事態宣言が解除されたからといって、「コロナ以後」はこれまで通りの生活はできません。最初の臨時休業時には、学校が再開したら、すぐにでも元通りになって、これまで我慢していたことを取り戻したいという気持ちから一気に開放的な気分になった人も多かったと思います。私たちも、そんな生徒の皆さんの嬉しそうな様子を歓迎したい気持ちがあったことは否めません。しかしながら、今回の学校再開では、前回の反省を活かして、自制心を失わないようにしなければいけません。油断はあつというまに再度の臨時休業につながります。感染症予防対策を決して緩めることなく、学校でも「コロナ以前」とは異なった過ごし方をしてもらわなければなりません。具体的にどう行動を変容させるかは、指示されるまでもなく、一人ひとりに考えてもらいたい。伊勢高生ならできるはずです。

（３）「反省」と「教訓」

4月21日にClassiで校長からの特別課題を出しました。5月14日現在、96名から

の回答がありました。課題の意図は、①自分の20年後を想像する、②20年後の視点にたって現在の状況を客観的に振り返る、③今の逆境を教訓に変える、の3点です。大変しっかりと情報収集した回答や、自分の姿をイメージできている回答があり、読ませてもらって頼もしく感じることができました。医療関係に就くという志望を改めて強めた人には、その使命感に頭が下がる思いもしました。20年後には、みなさんが30代後半にさしかかっています。社会的役割、世の中への貢献という観点から、この課題をとらえてもらいたいと思います。また、「当初は甘く見ていた」という反省も多くありました。教訓として、引き続き今の状況を甘く見ないようにしましょう。

(4) 「不安」「不満」「不寛容」

今回の事態は、誰も経験したことがなく、誰にも先の見通しが持てず、みんなが「不安」を抱いてきたと思います。「不安」なのは自分だけだと感じると、無警戒に振舞っているように見える人に対して「不満」を感じます。「不満」が高まると、他人に対して「不寛容」になります。

他者の「不安」に共感し、お互いが配慮しあうとともに、「不寛容」から過激に反応することなく、みんなが安心して学校生活が送れるように努めましょう。また、自分の言動が偏見や差別に基づくものでないか自省し、確実な事実のみに基づいた行動や発言を心がけましょう。

(5) 今後の学校生活について

臨時休業が長引いたことから、本年度の夏季休業は8月13日(木)から23日(日)までに短縮することにしました。学校行事なども、これまでどおりにはできませんが、与えられた条件の中で、みなさんの高校生活が最大限充実したものになるよう、知恵を絞っていきます。「これまでどおり」とはいかないことを理解し、各自でできることを前向きに進めていきましょう。

(6) 登校に不安を抱えている人へ

「収束」の状態に登校に不安を抱えている人もいます。学校としては、安心して登校できるようになるまで、個別の対応をしながら待っています。担任をはじめ、スクールカウンセラーなどにも遠慮なく相談してください。